

在来種・固有種の貴重な植物が 私達の周辺にあり、 そのいくつかは風前の灯火

まちづくり便覧



第4号 平成22年5月発行
編集：海津西浜知内地域文化的景観まちづくり協議会

重要文化的景観は、文化財保護法での定義に「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地」とあって、単に文化的な風景というだけでなく、その地域に住む人々、つまり私達の祖先からの暮らしや自然環境が重なりあって作り上げられてきた風景のことをいいます。

今回は、選定までの調査の中で、その成り立ちや特性などが明らかにになった自然的な要素の紹介をします。

海津・西浜・知内およびその周辺市域では、これまでから湖岸の砂浜にタチスズシロソウ、ハマヒルガオ、ハマダイコンなど珍しい海浜植物が多く分布することが知られていました。今回の調査でも、とくに西浜地先の湖岸の砂浜には、多くのタチスズシロソウが生育していること

が分かりました。これは、湖岸に住む人たちは、湖岸に住民たちが砂浜の除草を行うことで、雑草類の侵入が抑制され、古くからあるタチスズシロソウなどが生き残りやすい環境が維持されてきたためと考えられます。しかし、その一方でキャンプ場の整備や砂の入れ替えなどで、在来の植物が生息できる範囲が少なくなっているのも事実です。



タチスズシロソウ

地域内には、いくつかの沼や湿地・水田などがあり、ここには近畿地方では滋賀県の北部2カ所の


みで見られるイヌスギナ、在来で絶滅の危惧があるといわれているヒメミソハギやミズワラビなどの水田雑草が生育しています。こうした在来の品種が数多く残っている沼や水田は全国的に少なく、この地域の貴重な

海津西浜知内
三十六景
其の4

砂浜の草花

琵琶湖岸に生育する
海浜植物ハマヒルガオは、海岸のものと分かれて
独自に進化しつつあることが
最近の研究の結果
わかったそうである。

琵琶湖を始めて見る人が
よく、海のようなという
それは、あたり前のなのだ。



松や砂浜は当然のこと、
地面に生えている植物も
似通っているのだから。

琵琶湖の砂浜の植物は、
遠い昔に海にあった植物が
特別の進化を今している
太平洋の孤島ガラパゴスと同じ
悠久の地球の歴史の証人が
私達の目の前にもあるのだ。

(表面より続く) 自然的特性となっています。

さらに、地域内の沼や水路等ではドクゼリやナガエミクリという、これも絶滅が心配される珍しい種類の植物が確認されています。ナガエミクリは、かつては各地の農業用水路にしばしば繁茂しましたが、近年は水路の改修やコンクリート化などによりその数は激減しており、この地域での成育の確認は貴重といえます。

こうした、在来種・固有種の植物は、姿形の地味なもの、また一般的には雑草として取り扱われるものも多いですが、固有の植物が生息できるということは、以前からの良い環境が保ち続けられてきているということであり、こうした事実は、文化的景観を形作るための自然的要素として、多方面から注目されることになりました。



奥田沼のイヌスギナの群生



西浜の砂浜の植物

海津・西浜の湿地や湖岸の 自然観察散策の会

共催：マキノ夢の森

今月の記事にもあるような、豊かな地元の自然を再発見してみませんか

- ◎ 日 時 6月20日(日)
- ◎ 時 間 1:30~4:30
- ◎ 場 所 奥田沼~湖岸の散策
- ◎ 集合場所 奥田沼(自動車の駐車可能)
- ◎ 案内していただける先生 野間直彦先生



ハマダイコン(砂浜の植物)

※先生は、現在滋賀県立大学環境生態学科講師をされており、当地が重要文化的景観に選定された際の報告書で、自然環境の分野の調査をされた方です。

参加費無料で自由に参加できますが、資料の準備等の都合上、下記の申込用紙に記入の上FAX(27-0093)、又はお電話(27-0062)お願い致します。

自然観察散策の会に参加します(FAX27-0093)

お名前		お名前	
ご住所		ご住所	
・小学生以下 ・中学生以上		・小学生以下 ・中学生以上	